

旬な現場・現場見学のあり方

～現場見学を通じて感じた課題と解決策を提案！～

中部地方整備局 企画部企画課 三輪 拓海

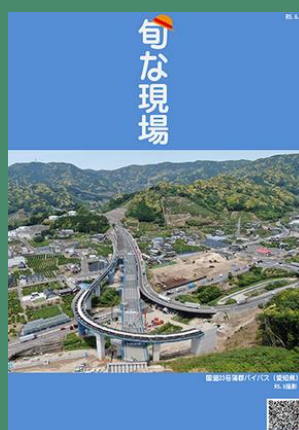
1. はじめに

中部地方整備局では、2012年度から管内の見学可能な現場・施設を「旬な現場」の冊子にとりまとめ、本局ホームページへの掲載や関係機関へ配布等により周知を行っている。

本発表では、「旬な現場」の内容や現場見学の現状について紹介するとともに、現場見学に同行して感じた課題と解決策について、提案する。

2. 「旬な現場」

- 更新頻度
春・夏・秋・冬の年4回
- 周知方法
HPへの掲載、関係機関への配布等
- 配布箇所
各県市、学校関係、観光協会等
- 掲載内容
 - ・ 見学可能な現場・施設（毎号約50箇所）
 - ・ 国土強靱化
 - ・ トピックス（写真スポット、水辺で乾杯、VR等）
- エフした点、苦労している点
 - ・ X（旧Twitter）等による継続的な情報発信を行っている。
 - ・ 写真やイラストを多く用いて、分かり易くしている。
 - ・ 読者を飽きさせないよう、興味をもってもらえそうなトピックスを探すのに苦労している。



旬な現場 2023年夏号



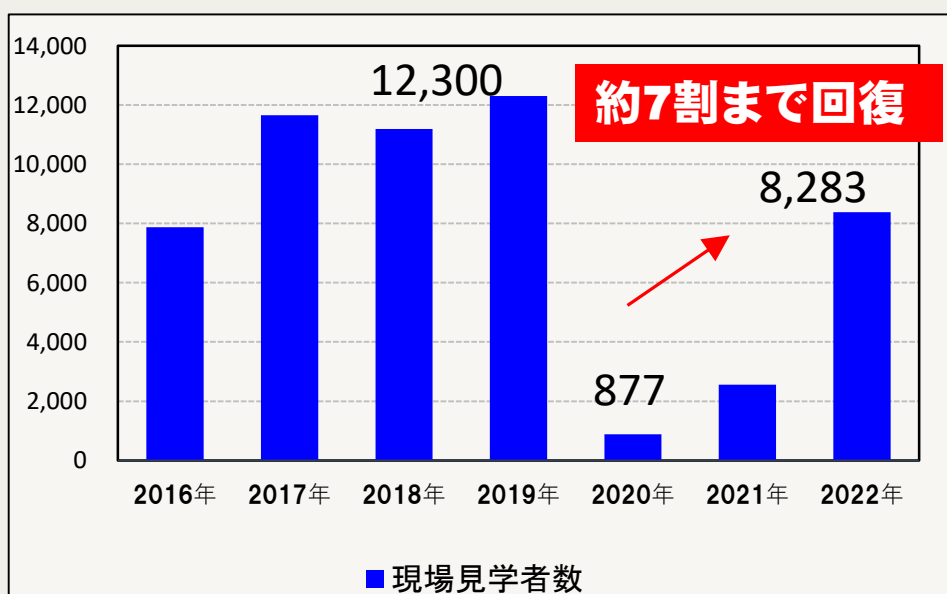
矢作ダム



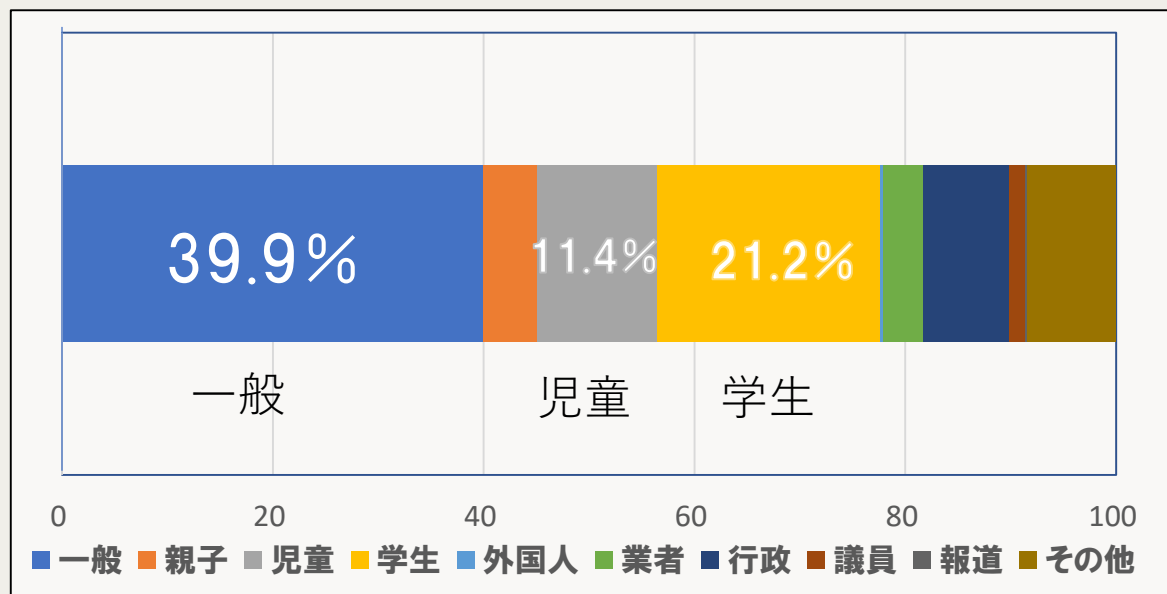
高山清見道路(中部縦貫自動車道)

3. 現場見学の現状

- 見学者数の推移
 - ・ 新型コロナウイルスの影響で2020年以降は、見学者数が大幅に減少したものの、2022年度には、感染拡大前の約7割まで回復している。
- 現場見学の属性
 - ・ 一般が約4割を占め、次いで学生が約2割を占めている。



中部地整内における年度別現場見学者数



現場見学の見学者属性（2022年度）

4. 課題と解決策

現場見学を通じて感じた課題と解決策を提案！



＜実際に参加した現場見学の概要＞

■日時：令和5年7月5日（水）

■見学者：名古屋工業大学 学生50名

■見学箇所

- ・道の駅とよはし（広域防災拠点）
- ・豊川放水路分流堰
- ・蒲郡バイパス（豊川為当IC、蒲郡IC）

課題

- ・現場見学に参加しても専門用語が難しく、十分理解することができなかった。
- ・一般の方も理解できていないのではないかと感じた。

（例）常用洪水吐、発破 等



解決策



- ・現場見学のターゲット（一般・学生・子供・専門家）によって言葉を使い分ける。
- ・ただし、言葉を使い分けるには、専門用語を正しく理解し、分かり易く伝える力と思いやりが必要だと感じた。

- ・現場見学の目的を十分把握できておらず、見学者のニーズに即した現場案内ができていないこともあるのではないかと感じた。

（例）観光、現地視察、社会見学 等

- ・見学者へ現場見学の目的を聞き取り、目的に即した現場案内を行う。
- ・中部地整の令和4年度の調査では、一般による現場見学が約4割を占めている。一般を対象とした現場案内を、まずは確立すべきではないかと思った。

- ・多くの人を受け入れようとする、現場案内する職員の負担が大きく、通常業務に支障をきたすこともあるのではないかと感じた。



- ・現場見学できる曜日や時間を限定する。
- ・職員に代わって、現場案内する人材を確保する。（シルバー等の活用）
- ・音声案内等を整備する。
- ・WEBツアーやVRを活用する。

引き続き、より効果的な旬な現場・現場見学のあり方について、検討していきたい。